

チェックテスト 解答

4章 各論：認知の障害への介入

1 認知とは (p.123)

①

感覚→知覚→認知

②

色や形を判断するのは側頭葉に向かう腹側経路で、位置や動きを判断するのが頭頂葉に向かう背側経路

③

狭義では知覚を介した物体の認識という意味で、広義では記憶や思考などを含めた脳の機能として用いられる

2 認知の障害の特徴 (p.129)

①

ある感覚様式を介してのみ、対象の認知ができなくなる症状のこと

②

物体、顔、文字、街並など

③

模写が可能かどうか。可能なのは連合型視覚失認

④

言語の語音、環境音、音楽など

⑤

街並失認と道順障害

⑥

左半球損傷

⑦

半側空間無視

3 認知の障害の評価 (p.132)

①

視力、視野、色覚など

②

はさみ、鍵、歯ブラシなど、対象者がよく知っている物

③

標準高次視知覚検査 (VPTA)

④

箸やスプーンといった食事で使用する道具の認知と、料理のメニューの認知

4 認知の障害への介入の実際 (p.136)

①

急性期、回復期、維持期 (生活期)

②

視力そのものの改善、図地知覚の再教育など

③

錯綜図や迷路など

④

対象の認知のために触覚や聴覚、運動覚を用いること